



中央ウェイ

9月号

「全日本聾教育研究大会東京大会に向けて～中央ろう学校の授業について～」

指導教諭 山崎 亜矢

暦の上では処暑も過ぎ、9月を迎えました。今年は9月、10月と猛暑が続くそうです。皆さまお体大切になさってください。本日から生徒が登校し、いつもの学校の風景が戻ってきました。これからの一か月、前期の学習を振り返ったり、まとめたりしながら後期の学習への準備ができればと思います。申し遅れましたが、私は指導教諭の山崎 亜矢と申します。指導教諭とは何か、一体何をしているのか、学校の外からは見えにくいと思います。具体的に申し上げますと、校内で行われる研究授業を参観し、授業者と共に良い授業づくりのための方法を考えたり、他校から要請があれば授業支援をしたり、研究授業やその後の研究協議会にも参加したりしています。そしてもう一つ、昨年度からは全日本聾教育研究大会に向け、校内研修の充実を図ること、研究を進めることに携わっています。今回は令和6年度の10月17日(木)、18日(金)に開催されます全日本聾教育研究大会について、そして大会に向けた本校の目指すもの、取り組みの一端をお伝えします。

全日本聾教育研究大会は、一年に一度開かれる全国規模の聾教育に関する研究会です。令和6年度的全日本聾教育研究大会は大塚ろう学校と本校が主管校です。東京大会のテーマ「新しい時代の聴覚障害教育を考える～子供たちが豊かな人生を自ら切り拓くために～」を受け、本校では研究テーマを「伝える、尋ねる、話し合う～他者と共に学びを深める生徒の育成～」としました。学校生活の大部分を占めるのは授業です。授業者である私たち教員は生徒の大切な時間を預かっています。その大切な時間を充実させていくためにはどうしたらよいのか教員間で話し合っただけで済ませず、本校の生徒は大学等への進学を目指しています。大学等では自ら課題を見つけ、探求する力が必要になります。ゼミナールなどに所属し、他者と共に課題の解決に取り組んだり、対話を通して学問を深めたりしていきます。このことは大学での学びの醍醐味だと思います。すでに昔のことですが、私自身の大学生活を振り返ってみても、ゼミナールの前に、仲間と時間を作って何度も話し合い、発表に臨んだことは忘れられない思い出であると同時に、学ぶことの大切さを知る経験となりました。受験に向け一所懸命に学習し、成果を上げたその先の学びも視野に入れ、中学生、高校生の段階から自ら学び、問いを立てたりしながら、他者と共に学びを深める力を身に付けることが大事だと考えます。そのためには、私たち教員は、しっかりと授業計画を立て、単元計画のどこで「伝える、質問する、話し合う」活動を取り入れていくのかということを考えていく必要があります。発問計画をしっかりと立て、「考えさせる発問」を組み込んでいくことも大事です。その基盤としてろう教育の専門性を高める努力をすることは言うまでもありません。本校では、ろう学校の授業として大切なポイントをまとめたチェックシートを活用し、OJTなど研究授業の際、授業改善に生かしています。また、学部の教員全員が参加し、一つの授業について検討する会も今年度より実施しています。基礎・基本的な事項の指導を大切に、ろう学校として言葉の指導にも力を入れていきます。

生徒の皆さんには、「伝える」「質問する」「話し合う」ために必要な事柄を授業の中で指導していきます。一例を挙げれば、「伝える」では「分からないことがあった時、分からないことを先生や友達に伝える」、「質問する」では「家庭学習や授業中に疑問に思ったことをメモしたり、分からなかったところに線を引いたり印をつける」、「話し合う」では「話し手が何を言おうとしているのか理解しようという意欲をもって話を見聞きする」などです。今後教室にも掲示し、常に意識できる環境を整えていきます。ご家庭でも、「伝える、質問する、話し合う」力を育てていただけますようご協力お願いいたします。